

2026 年 6 月 25 日

各位

株式会社ドリーム・アーツ

**SmartDB、KDDI 提供の「Gemini on Google Distributed Cloud」トライアルを開始
～国内データ主権を担保しつつ、先進的な AI の業務活用を可能に～**

大企業向けクラウドサービスの株式会社ドリーム・アーツ（東京本社：東京都渋谷区、広島本社：広島県広島市、代表取締役社長：山本 孝昭、以下 ドリーム・アーツ）は、大企業向け業務デジタル化クラウド「**SmartDB®**（スマートデービー）」に関し、KDDI 株式会社（東京本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：松田 浩路、以下 KDDI）がトライアル提供中である Gemini on GDC^(※1)への対応に向けた PoC を開始しました。

本取り組みにより、**SmartDB®**を利用する大企業はデータ主権を国内に保持しながら、Google の生成 AI「Gemini」の性能を活用した業務変革を国内環境で実現できることを目指します。

※1 Gemini on Google Distributed Cloud の略称

2026 年 04 月 30 日 KDDI トピックス

「大阪堺データセンターを活用した Gemini on GDC のトライアル提供開始」

https://newsroom.kddi.com/news/detail/kddi_nr-1008_4466.html

■背景：大企業における AI 活用とデータガバナンスの課題

近年、生成 AI の業務活用が進む一方で大企業を中心に以下のような課題が指摘されています。

- ・機密情報や業務データの国外移転への懸念
- ・AI サービスにおけるデータ取り扱いの不透明性
- ・国内規制・ガバナンスへの適合性

特に製造業や金融業などでは、これらの要因から AI 導入に慎重な検討が求められ、実運用の展開にあたっては一定のハードルが存在しています。実際に、先進的な AI 活用の可能性を評価しつつも、データの取り扱いや信頼性への不安から検証段階にとどまるケースもあります。

このようななか、「データを国内に保持したまま、高度な AI を安全に活用したい」というニーズが高まっており、ソブリン AI への関心が拡大しています。特に国内の大企業にとっては、今後の企業競争力を左右する AI 活用において、ガバナンスと実用性の両立を実現する環境が不可欠となっています。

ドリーム・アーツは 2026 年 4 月に **SmartDB®**の新オプション「SmartDB Practical AI®（PA）」

(※2)」の提供を開始し、業務における実務・実践・実用的な AI 活用を段階的に拡張。こうした状況を踏まえ、国内大企業におけるさらなる活用促進を目的として、データ主権を担保した AI 利用環境への対応を進めます。

※2 SmartDB Practical AI (PA) オプション提供開始プレスリリース

<https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/news/press-release/in260409/>

■KDDI でトライアル提供中の Gemini on GDC：ソブリン性を担保した提供モデル

KDDI の大阪堺データセンターでは、Google の生成 AI モデル Gemini をオンプレミス環境で利用できる「Gemini on GDC」のトライアル提供を開始しています。国内の企業や組織は、データ主権を確保しながら、Gemini を活用した高度な分析やサービス開発をすることが可能です。

本環境の概要は以下の通りです。

- ・ Google の高性能な生成 AI モデル Gemini による推論
- ・ ソブリン性を意識した国内データ管理
- ・ KDDI によるハードウェア保守運用

これにより、「データ保護・ガバナンス対応」と「高度な AI の活用」を両立し、国内企業の実運用に適した AI 活用環境を実現します。

■SmartDB が実現する「データ主権」と「AI 活用」の両立

SmartDB®は、大企業向け業務デジタル化基盤として、全社の業務プロセスを統合的に支えるワークフローや、企業の競争優位性に直結する複雑な個別業務の基盤、ならびに基幹システム周辺領域の業務データ管理など、幅広い範囲で活用されています。2026 年 4 月には、組織全体での AI 活用を目的とした「SmartDB Practical AI® (PA)」の提供を開始し、業務データおよび業務プロセスに組み込まれる形で、AI 機能を段階的に拡張しています。一方で、大企業での AI 活用を本格的に展開するには、データの取り扱いに関する制約やガバナンス要件への対応が必須となります。

本取り組みにより、SmartDB®に蓄積された業務データの主権を国内に保持しつつ、SmartDB Practical AI® (PA) オプションで提供する各種 AI 機能が利用可能となることを目指します。

これにより、SmartDB®は業務データと AI を安全に活用できる基盤へと進化し、国内大企業の AI 活用を支援します。

■今後の展開

ドリーム・アーツは、**SmartDB®**における AI 活用の強化を進めるとともに、顧客である大企業が求めるガバナンス・セキュリティ要件に対応した選択肢の拡充を図ります。

本取り組みはその一環であり、今後の社会・制度環境の変化を踏まえながら、順次提供範囲の拡大を検討していきます。

■KDDI 株式会社 先端技術統括本部 先端技術企画本部長 藤井 彰人 氏からのコメント

KDDI は、先進的な AI モデルの業務活用において重要となる、ソブリン性を意識した基盤の実現に取り組んでいます。本取り組みにより、ドリーム・アーツの顧客が求めるガバナンスと実用性を両立した AI 活用が、より現実的なものになると期待しています。今後もドリーム・アーツと連携し、顧客の業務変革を支える AI 基盤の提供に取り組んでまいります。

ドリーム・アーツは、今後も“協創”を理念に掲げ、「現場力強化」「企業競争力向上」に役立つトータルソリューションを提供してまいります。

■当社連結業績への影響

現時点において、本件による当社連結業績への影響は限定的であり、当期の業績予想に重要な影響はありません。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。



SmartDB® (スマートデービー) について <https://hibiki.dreamarts.co.jp/smartdb/>

SmartDB®は、大企業市場シェア No.1 (※3) の業務デジタル化クラウドです。現場個別の業務から全社横断業務までノーコードで開発可能。ワークフローと Web データベースを中心に多彩な機能をもち、柔軟な外部システム連携、きめ細かな権限管理、高度なセキュリティ要件にも対応しています。三菱 UFJ 銀行や KDDI、ツルハホールディングス、筑波大学など、大企業を中心にあらゆる業種業態のユーザーが利用中です。サービス基盤としてマイクロソフトが提供するクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」を採用し、利用規模の変化やコンテンツの増加にも柔軟に対応できる環境を実現しています。

※3 テクノ・システム・リサーチ「2025 年 SaaS 型ワークフロー市場メーカーシェア調査」より

株式会社ドリーム・アーツについて <https://www.dreamarts.co.jp/>

「協創する喜びにあふれる人と組織と社会の発展に貢献する」をコーポレート・ミッションに掲げるドリーム・アーツは、「協創」を自ら体現することで、顧客の真のソリューションパートナーとして総合的な課題解決をお手伝いしています。

主なサービスとして、大企業向け業務デジタル化クラウド「**SmartDB®**」、多店舗オペレーション改革を支援する「**Shop らん®**（ショッピングラン）」、大企業の働き方を変えるビジネスコックピット「**InsuiteX®**（インスイートエックス）」などのクラウドサービスを開発・提供しています。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ドリーム・アーツ 広報担当 金井・岡

〒150-6029 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー29F

TEL：03-5475-2501 / 090-9149-3958 E-mail：pr@dreamarts.co.jp

記載されている会社名および商品・サービス名は各社の登録商標または商標です。

©DreamArts Corporation.